

トヨケム株式会社 川越製造所 技術管理棟

TOYO CHEM Kawagoe Office

No. 19-033-2022作成

新築
事務所

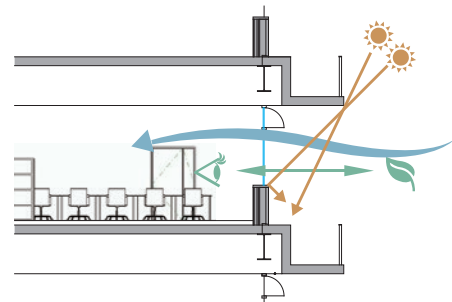
発注者	トヨケム株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	(株)安藤・間 一級建築士事務所	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	(株)安藤・間	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

地域景観継承と環境負荷抑制を兼ねたサステナブルオフィス



埼玉県川越市の工場敷地内に建設された厚生棟兼オフィスである。

川越・所沢間を結ぶ県道6号沿いの市境付近に位置していることから、古都川越の重層性のある庇や黒漆喰といった景観的特徴を引用した外観デザインとした。この庇は日射制御の役割も担い、豊かな眺望を確保しながら日射による空調負荷低減に寄与している。そのほか各種高性能設備の設置、および屋上の太陽光パネル設置により一次消費エネルギー削減率76%のNearlyZEB 認証を獲得している。

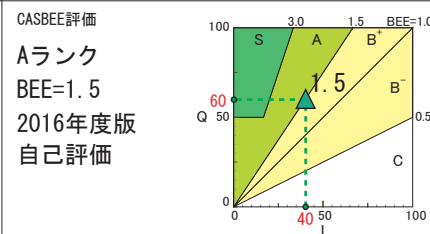


眺望確保と日射制御を兼ねたPCa庇



Nearly ZEB (削減率76%)

建物データ	
所在地	埼玉県川越市
竣工年	2022年
敷地面積	123,926㎡
延床面積	4,225㎡
構造	S造一部PCa底採用
階数	地上4階



エントランスホール・食堂

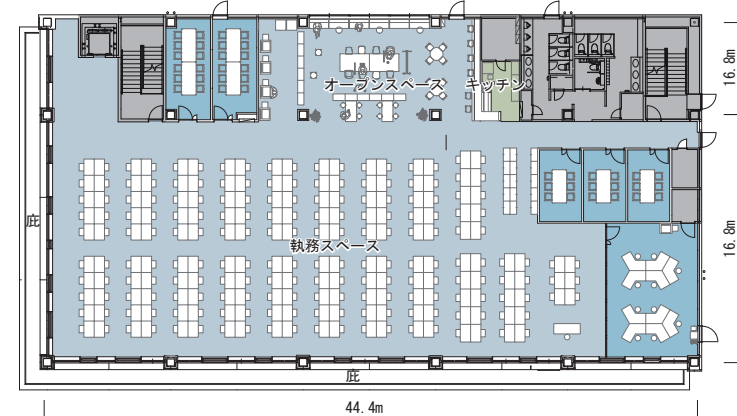
来客を迎える吹抜を有するエントランスは、PCa底により直射日光を遮りながら下部庇のバウンド光天井面に取り入れ、日射遮蔽と明るさ感確保を両立させている。照明は階段・扉・EVなど動線上の限定的に設けることで、照明エネルギーを低減している。

製造所の拠点となる食堂においてはBCP対策として天井レスの空間とし、様々なイベントに対応可能とするために照明はすべてライティングダクト取付とし、利用者による自由なレイアウトを可能としている。

オフィス

16.8mのロングスパンにより、執務スペースに柱のないフレキシブルなオフィス空間を実現している。

加えて、西面にはキッチンとつながったオープンスペースを設け、ミーティングテーブルに加えて書棚格納も可能なライブラリーベンチなどを設けることで、社員同士の気軽なコミュニケーションが可能な場として計画している。



環境負荷低減対策

省エネ対策として、PCa底による日射制御や外壁の高断熱化に加え、全館LED照明・高効率空調・エコキュート等の採用により55%のエネルギー削減とし、加えて太陽光発電による創エネ21%を加え、合計76%の一次消費エネルギー削減を実現している。



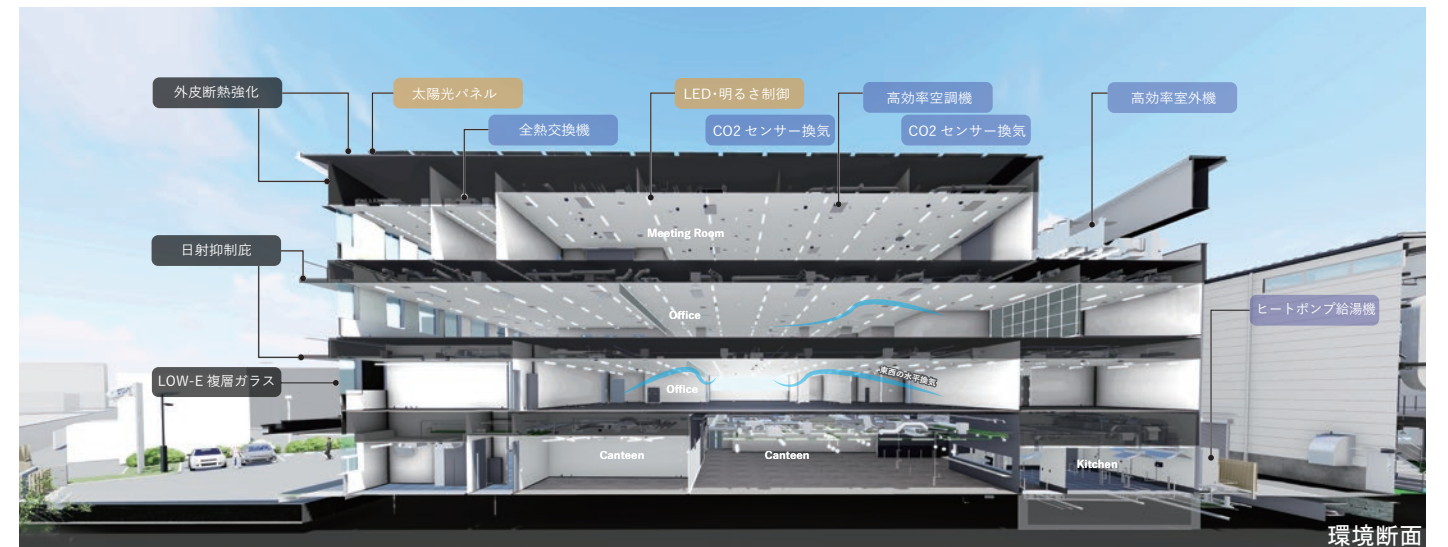
1Fエントランスホール



1F食堂



3Fオフィス オープンスペース



環境断面

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2. 3. 対応性・更新性 (16.8mスパンの無柱オフィス)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (歴史性の継承)
- LR1. 1. 建物外皮の熱負荷抑制 (庇、高性能ガラス)
- LR1. 2. 自然エネルギー利用 (太陽光発電)
- LR1. 3. 設備システムの高効率化 (LED照明、エコキュート)